

2020 年度日本農村生活学会大会（第 68 回大会）開催要領
(2020 年 9 月 8 日)

1. 基本事項

開催期日：2020 年 10 月 17 日（土）～18 日（日）

開催会場（オンラインのホスト）：福島県男女共生センター（福島県二本松市）

主催：日本農村生活学会

2. 大会日程

1 日目（10 月 17 日）：

13:00～13:10	開会挨拶
13:15～15:45	シンポジウム
15:50～17:00	学会賞についての報告および総会

2 日目（10 月 18 日）：

9:00～12:00	一般報告
13:00～15:00	ラウンドテーブル
15:00～15:10	閉会挨拶

***すべてオンライン（zoom）で行います。**

3. 大会委員会

委員長：岩崎由美子（福島大学）

委員：飯塚里恵子、鈴木（是川）邦子、知野愛、千葉悦子

4. シンポジウムテーマ

2020 年度の農村生活学会大会シンポジウムが福島県で開催されるに当たり、大会委員会では、全体テーマを「福島から発信する新たな農的暮らし—震災・原発事故から 10 年を経て—」に設定しました。

早いもので、原発震災の発生からまもなく 10 年を迎えようとしています。交通インフラや公共施設の復旧・整備はほぼ完了し、「福島イノベーション・コースト（国際研究産業都市）構想」などの国家プロジェクトも本格始動するなど、福島は産業集積、地方創生のモデルとして復興・再生の途を確実に歩んでいるように見えます。

しかしながら、福島の実験と教訓を真に活かすには、機械化・大規模化・効率化といった従来の経済復興路線とは異なる、住民が主導するオルタナティブな復興の歩みにこそ注目する必要があるように思われます。

本シンポジウムの会場となる福島県二本松市の東部に広がる東和・岩代地域では、震災後、農家が主体的に行う放射能測定や除染、営農再開の取り組みのほか、女性が主体となった民宿経営や都市農村交流活動、地域文化活動などが積極的に行われてきました。

本シンポジウムでは、こうした取り組みを展開してきた女性に焦点を当て、彼女たちが地域復興の主体として成長してきたプロセスとその基盤や条件等について、社会教育の視点もふまえながら検討していきます。

新型コロナウイルス感染の広がりのなかで、グローバル資本主義や大都市一極集中型社会に対し大きな見直しが求められている今、人と自然、人と人、世代間、地域間の共生を基礎とした、3.11の先にある新しい農と暮らしのあり方について、福島の地から考えていければと思います。

5. 詳細スケジュール・登壇予定者（敬称略）

【 1 日目 10 月 17 日（土） 】

※zoom 接続開始 12 : 45 ~

(1) 開会挨拶 13 : 00 ~ 13 : 10

学会長挨拶 : 安倍 澄子

大会委員長挨拶 : 岩崎 由美子

(2) シンポジウム 13 : 15 ~ 15 : 45

テーマ「福島から発信する新たな農的暮らし

—震災・原発事故から 10 年を経て—

座長 : 飯塚 里恵子 (千葉農村地域文化研究所)

座長解題 13:15~13:30

パネリスト報告 :

(1) 引地 知子 (あぶくま農と暮らし塾)

「東和地域でつながって生きる」

13:30~13:50

(2) 山崎 友子 (道の駅「さくらの郷」元代表理事、農家民宿「清峰園」)

「仲間とともにひらく 私・岩代地域 —3.11 でも諦めなかったもの—」

13:50~14:10

(3) 千葉 悦子 (福島大学名誉教授、福島県男女共生センター館長)

「「村を捨てない」女性たちのエンパワメントと社会教育実践

—原発災害に向き合って—

14:10~14:30

休憩 14:30 ~ 14:45

質疑応答と議論 14:45 ~ 15:45

(3) 2020年度学会賞についての報告 15:50 ~ 16:00

(4) 学会総会 16:00 ~ 17:00

【2日目 10月18日(日)】

(1) 一般報告 9:00 ~ 12:00

※1人20分(報告15分 質疑応答5分を目安に)

(2) 休憩 12:00 ~ 13:00

(3) ラウンドテーブル 13:00 ~ 15:00

「生活改良普及員OGに聞く

— “生改”の活動経験を生かした女性起業・復興事業支援」

コーディネーター：鈴木(是川)邦子(山形県農業総合研究センター)

話題提供者：太田 文代(福島県生活改良普及員OG)

コメンテーター：岩崎 由美子(福島大学)

(4) 閉会挨拶 15:00 ~ 15:10